カトリック新潟教区報

第229号

カトリック新潟教区
編集発行人　教区報編集部
〒951-8106 新潟市東大畑通1-656
TEL　025-222-7457
FAX　025-222-7467

2004（平成16）年10月17日発行

着座した第七代教区長・菊地功司教

菊地功司教叙階

福音に生かされた教会共同体づくりを目指す

教皇ヨハネ・パウロ二世は五月十四日正午（日本時間午後七時）新潟教区長佐藤敬一司教の辞任願いを受理し、同日任命を受けた後任のタルチシオ菊地功司教の叙階式が、九月二十日午後一時から新潟清心女子中学高等学校講堂で岡田武夫大司教主司式により厳粛のうちに執り行なわれた。新司教誕生の祝いと新潟教区の更なる発展を願って、駐日教皇庁大使エムブローズ・デ・パオリ大司教と国内外の司教をはじめ、教区内外の司祭・修道者・信徒、更に国際カリタスの海外デスクなど一〇〇〇人以上が参列した。叙階式の中で新司教は「福音を広く伝えるために、その基盤となる福音に生かされた教会共同体づくり、教区づくり」を目指すと決意を表明した。

午後一時、六〇人近い新潟地区の合同聖歌隊と参列者が歌う入祭の歌声の中を、十字架・ローソクの侍者・福音書を捧持する助祭を先頭に、キサラ神言修道会日本管区長と教区事務局長川崎久雄神父が先導して、菊地功被選司教・共同司式の十四人の司教団と、駐日教皇庁大使エムブローズ・デ・パオリ大司教・梅村司教（横浜教区長）・谷司教（さいたま教区長）・主司式の岡田大司教（東京教区長）の順に入堂。（式場の都合で約九十人の共同司式司祭は、式場の自席で行列を迎えた）

叙階の儀

ことばの典礼が終わり叙階の儀の始めに、参列者全員は起立して「聖霊の読唱」を歌った。

任命書の朗読

被選司教はキサラ管区長と川崎神父に先導されて主司式の岡田大司教の前に進み、鎌田耕一郎神父が教皇ヨハネ・パウロ二世の任命書を参列者一同に示し、更に日本語の翻訳文を朗読した。

諸聖人の連願

「皆さん、いつくしみ深い全能の神が、この選ばれた者に、教会を導くために必要な恵みを惜しみなく与えてくださるように祈りましょう」との大司教の招きに、被選司教は床に伏して参列者一同と心を合わせて連願を唱えた。

按手と叙階の祈り

連願を終えると大司教はひざまずいている被選司教の頭の上に手を置き按手し、続いて参列の全司教が一人ずつ順に按手をして、次に二人の助祭が支えた福音書を菊地新司教の頭の上に載せて、共同司式の全司教がひざまずいている新司教に向かって叙階の祈りを唱え、終わると大司教は新司教の頭に聖香油を塗油して聖霊の豊かな祝福を祈った。続いて福音書の授与と指輪の授与が行なわれ、ミトラ（司教帽）とバクルス（司教杖）が手渡された。

司教座に着座

大司教の招きで新司教は司教座に着座し、この瞬間、正式に新潟教区長に就任。満場の参列者から喜びの大拍手が起こった。

感謝の典礼と巡回祝福

引き続いて菊地司教司式の感謝の典礼が粛々と行なわれ、拝領祈願の後、ミトラとバクルスをつけて、梅村司教と谷司教の二人に導かれて式場を巡回して参列者全員を祝福した。

「神よ、あなたの恵みをとおしてわたしに授けられたたまものを顧みてください。司教に叙階された者が務めを成し遂げてみ心にかなう者となり、民と司教の心を同じ喜びで満たし、羊たちは常に牧者に従い、牧者は決して群れへの配慮を怠ることがありませんように。アーメン。」

新司教の祝福を受けた式場にあふれるばかりの参列者が高らかに歌う「アーメンハレルヤ」（退堂の歌）の喜びの歌声につつまれて、叙階式の終わりが告げられた。

任命書を掲示する鎌田神父

任命書

神の僕たちの僕　司教ヨハネ・パウロは、親愛なる子、神言会前日本管区長であり、新潟教区の被選司教であるタルチシオ菊地功師、あなたに挨拶と使徒的祝福を送ります。

各地方教会の羊たちのために牧者、司教を定めることは、私が神から受けた職務であり、尊敬する兄弟フランシスコ佐藤敬一師の辞職によって牧者を失った新潟教区の愛する群れに目を留め、司教の任命を速やかに実行することを熱望しています。

親愛なる子よ、あなたが神言会日本管区長として様々の機会に示した、誠実な信仰、豊かな経験、賢明さと学識を私は知っています。

私は福音宣教省に諮り、使徒的権威をもって、あなたを新潟司教に任命します。これにより、あなたは司教としての法的権利が与えられ、同時に義務が課せられます。

まず、信仰宣言と私と私の後継者に対する忠誠の誓約を、慣例の定められた様式を用いて行い、それを福音宣教省に送ってください。

私はまた、あなたが典礼規則を守り、あなたが望む場所で、カトリック教会の司教による司教叙階を受けることを喜んで許可します。

また、新潟教区の聖職者と信徒に、私の決定と意志を知らせてください。終わりに、親愛なる子よ、教会の母、マリアの助けにより、あなたに委ねられた民に、あらゆる配慮を示し、それによって民が霊的救いを得られるよう激励します。

ローマ聖ペトロの座において
二〇〇四年四月二十九日
教皇在位二十六年
ヨハネ・パウロ二世

教区の皆さん

菊地司教

新潟へは名古屋から、車で引っ越してきました。6時間の長旅でした。ところが先日、信徒使徒職協議会が開かれていたとき、秋田から新潟まで、車で同じく6時間かかるのだと教えられました。新潟教区の広大さを実感し、身震いがいたしました。

私は岩手県の生まれで、東北の人間です。しかし、小神学校時代から今に至るまで、人生の大半を名古屋で過ごしてきました。ですから東北の今を知りません。司祭になってからはすぐに、宣教師としてアフリカのガーナへ派遣され、8年間働いていました。ですから日本の教会の現実について、身をもって体験してもいません。そういえば、「ナイス」が二度ほど開催された頃、私はまだアフリカにおりました。また、神言会の管区長時代に秋田地区をしばしば訪問したことがあるとはいえ、山形と新潟のことについては全く知りません。ですから改めて言うまでもなく、私の最優先の課題は、新潟教区の現実を知ること、そしてできる限り多くの機会を捉えて、皆さんにお会いすることに他なりません。

ガーナで小教区の主任司祭を務めていた頃、電気も水道もない山奥の村で、五千人ほどにのぼる信徒の方々を神父は私一人で担当していました。公共交通機関もない地です。町の教会に皆を集めるわけにはいかず、いきおいそれぞれの村に教会を建てることになります。そんな巡回教会が二十カ所以上ありました。もちろん一人の神父が日曜に二十回もミサをするわけには行きません。それぞれの村の共同体にはリーダーがいて、日曜の礼拝を司っていました。それぞれの村で、聖体拝領のできるミサは、三ヶ月に一度か二度しかありません。

誤解していただきたくないのは、だからミサを減らせばよいと言うことではありません。私はガーナで体験した生き生きとした村の共同体が懐かしいのです。喜びにあふれてミサや礼拝に集まってくる人たちの、その喜びの顔が懐かしいのです。

実は宣教の極意はここにあるのだと信じます。私たち一人一人に与えられた宣教使命を果たす第一歩は、喜びに満ちあふれた共同体作りです。人々を魅了し、召命をあふれ出させるには、魅力あふれる喜びの共同体が不可欠です。新潟の、山形の、秋田の、それぞれの現実から生まれてくる喜びの共同体を、共に作って参りましょう。私も一生懸命務めます。皆様のお祈りとご協力をお願いします。

モットーと紋章

多様性における一致

ローマ人への手紙十二章五節に「わたしたちも数は多いが、キリストに結ばれて一つの体を形づくっており、各自は互いに部分なのです」とあるように、キリストの体としての教会は、多様性に富んだ様々な人によって成り立っています。教会に属するすべての人が、共同体においてそれぞれの役割を見いだし、喜びを持って信仰生活に生きる時、共同体は宣教する共同体へと変えられていくのです。その願いを込めて、私のモットーを**多様性における一致**といたしました。

紋章は伝統を重んじながらも、非常に現代的なデザインを配するという、これまた「多様性」を具現化したものとなっています。紋章の周辺部は伝統的なデザインを踏襲しています。

中心部分は、四つに分かれています。左上部分と右下部分は、実際には青の背景に黄色の波のようなものが描かれています。青は海でもあり空でもあります。波のように見えるのは、開かれた聖書です。すなわち聖書の御言葉が、世界中に広がるようにとの願いを表しているものです。

左下部分と右上部分には、五つの丸が描かれています。これは世界の五大陸を象徴すると同時に、人間の体も象徴しています。すなわち一つ一つの共同体（一つの丸）が集まって、一人の体（キリストの体）を形成していることを象徴しています。ちなみにこの丸の色は、ブドウの色に近い赤にしてあり、キリストはブドウの木、私たち一人ひとりはその枝である、という聖書のイメージも表しています。

中央にある紋様は五つの丸が複雑に絡み合って出来ていますが、今まさに開こうとしている花のつぼみを象徴しています。福音のメッセージが日本の地においてこれまで以上に花開くことを願ってのデザインです。

新潟教区司教　菊地　功

紋章

多様性における一致

タルチシオ 菊地　功
新潟司教

菊地司教様の叙階と新潟教区長の就任によせて

神言修道会　日本管区長　**ロバート・キサラ**

このたびの菊地功司教様の叙階と新潟教区長就任を心よりお祝い申し上げます。

菊地功司教様の叙階と新潟教区長就任は、われわれ神言会にとりましても、大きな喜びであります。日本において神言会会員が初めて司教叙階のお恵みを受け、さらに神言会が宣教活動を始めた地である新潟教区へ任命されたということに、神のみ摂理を感じております。

菊地功司教様の今後のご活動の上に、また新潟教区の発展のため、司祭、信徒の皆様の上に神の豊かな祝福と導きをお祈り申し上げます。これからも新潟教区の皆様と共に、新潟教区のため、また日本の教会のために奉仕していきたいと存じます。

菊地司教様おめでとうございます

カリタスジャパン　事務局長　**野坂　秀男**

菊地功司教様　おめでとうございます。

今日の菊地司教様の慶賀はカリタスジャパンの今後の発展に大きな希望をあたえてくださいました。

菊地司教様はガーナから戻られ、一九九五年のルワンダ救援活動に参加されて以来、カリタスジャパンの海外救援活動を通して開発途上国のカリタスとのパートナーシップ構築を堅固なものとされました。

菊地司教様のお働きにより、カリタスジャパンの実績は国際カリタスの参加国のなかでも高い評価を与えられ、カリタスジャパンは国際カリタスの理事国の代表として国際カリタスの発展に大きく寄与しております。

私たちは、本日の慶賀を主に深く感謝し、菊地司教様のご指導のもとでカリタスジャパンの活動を誇りとして、日本のカトリック教会の宣教、司牧に貢献していきたいと思います。

このお恵みを主に感謝してご挨拶に変えさせていただきます。

「主と共に」

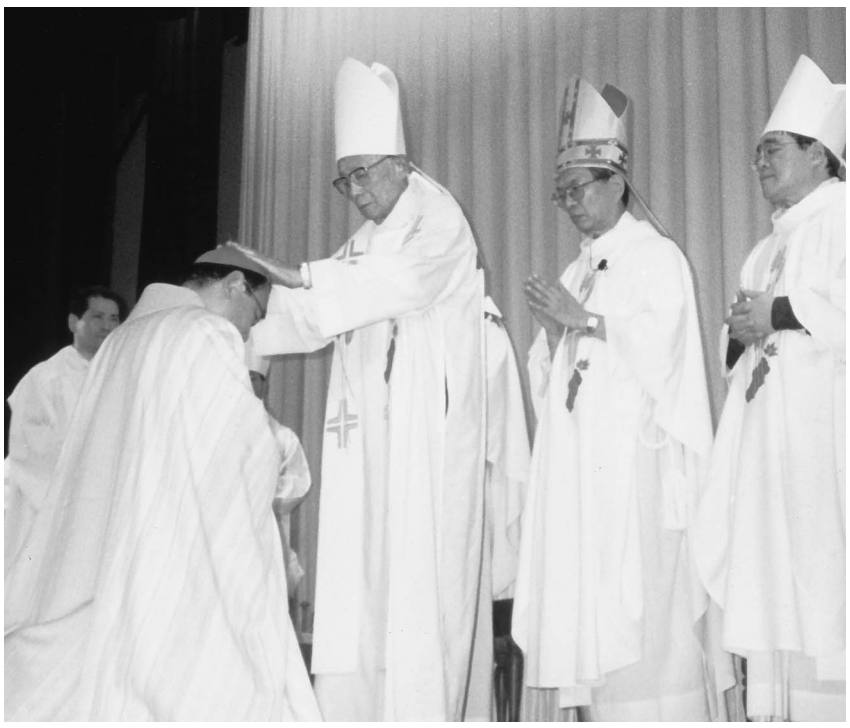
神言会司祭　**品田　豊**（吉祥寺教会）

菊地司教様の叙階を心からお喜び申し上げます。

司教様も私も神学生時代に一方で司祭を目指しながら、他方

叙階の儀の中で説教する池長潤大司教（大阪教区長）

式場の最前列で開祭を待つ親族

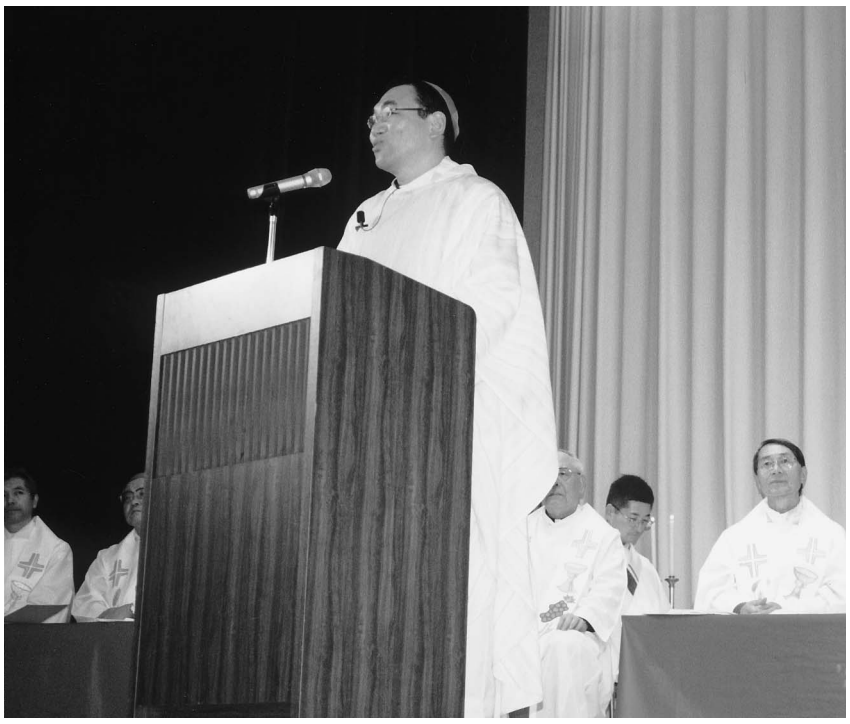


全司教が順に被選司教に按手。佐藤敬一司教、按手の瞬間

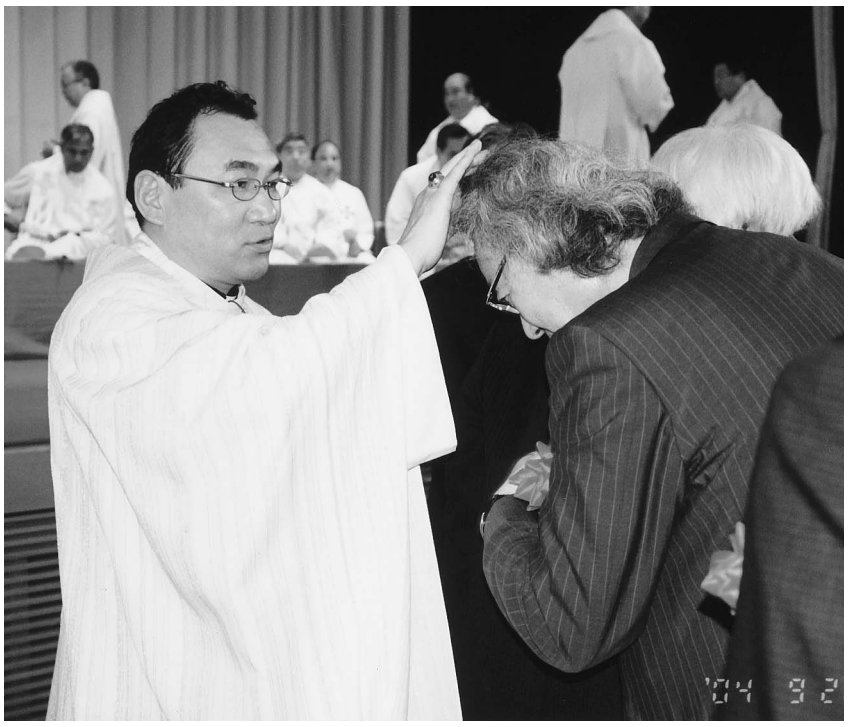
1,000人以上の参列者で埋めつくされた

開いた聖書を新司教の頭にかざして、共同司式の全司教が叙階の祈りを唱える

約90人の共同司式司祭は自席で入堂の行列を待つ



会衆の前に立った新司教「福音に生かされた教会共同体づくり、教区づくりを目指す」と表明

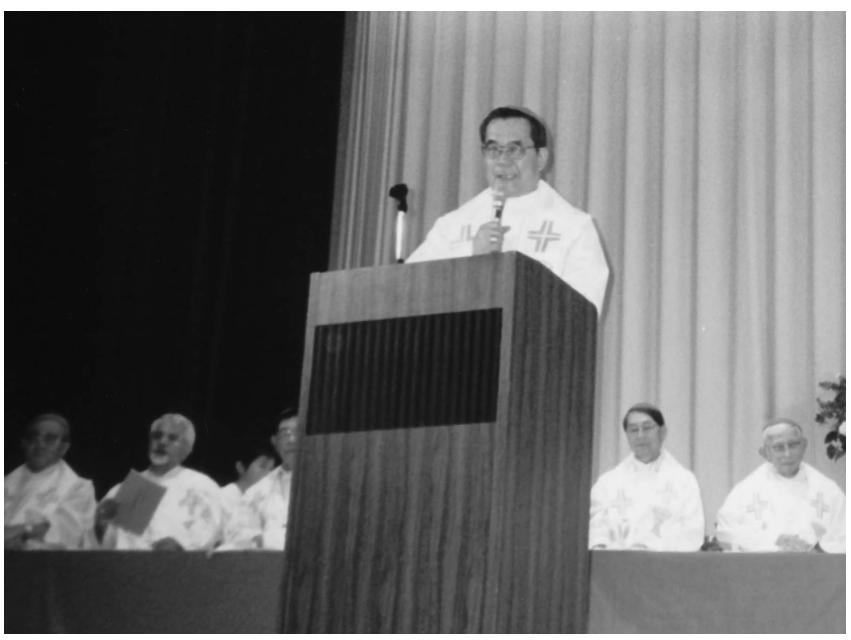


聖体拝領時において親族に祝福を与える新司教

喜びあふれる参列者のアーメンハレルヤ（退堂の歌）の大合唱
（リードは新潟地区の合同聖歌隊）

新司教から聖体を拝領する来賓（ノートルダム清心学園理事長）

退堂のあと、式場前庭で共同司式の司教団



新司教を祝う野村純一司教（司教協議会会長）
病をおして19年にわたり新潟教区を導いてこられた佐藤司教に感謝を述べ、会衆には司教の仕事は一つの教区に留まらず日本の、世界の教会全体にその責任を担っていると司教職の広がりにもふれて、新司教の叙階を祝う

ではいつも他の道にも目移りがしていたものです。しかし不思議なもので本人達がいくら脇道に逸れようとしても、無駄な抵抗であり、気がつくと再び元の道を歩み続けていました。

お互いに決して模範的な神学生だったとはいえませんが、今司祭生活を振り返って確信していることは、いつでも神様が支えてくださっていたことです。

菊地司教様。これからは今まで以上に険しい道を歩むこともあるでしょう。しかし主は「多様性における一致」を目指すあなたと共にいてくださいます。

気張らずに

神言会司祭　後藤　文雄（吉祥寺教会）

「越路（こしぢ）とは鬼住む里と思いしに都にまさる人心かな」という詠み人知らずの歌碑が、郷里長岡の郊外乙吉（おとよし）の路傍にたっています。

菊地司教さま、あなたが新潟教区司教に叙階されたことは、慶賀の至りです。これからの30年間、一意専心、み国の来らんことを念じながら、新潟教区のために殉教の決意をもっておあたりください。

日本海側の地は、恐ろしい鬼が群をなして住んでいると思ったのに、都人にもまして優しい心根の人たちばかりだったと古人は述懐しました。今もその通りです。安心して、全教区民の中に手足を思う存分伸ばして司教職を全うしてください。

（長岡福住教会出身）

宣教活動のエネルギーを与えてください

石崎　利己（秋田地区信徒協）

菊地司教様の叙階を心から歓迎いたします。秋田地区は神言会が司牧する地区。同じ神言会から新しい司教様が来られたことにとても大きな喜びと誇りを感じております。また、秋田市と同緯度の宮古出身である菊地司教様を身近に感じながら、国際人である司教様にならい、私たちは新たな勇気と宣教活動に対するエネルギーを蓄えていきたいものと考えております。

菊地司教様がご健康に恵まれ、力強く新潟教区を牽引してくださることを期待いたしますとともに、私たちも惜しみなく献身することをお誓いいたします。

ご一緒に感謝の祈りを捧げる日を心待ちにして

沼沢　敬志（山形地区信徒協）

菊地司教様叙階おめでとうございます。

叙階式に参列出来る事は、私に取りましても、大切なお恵みと感じております。

ただ、山形から新潟までは遠いこともあり、大多数の方は地元山形で感謝の祈りを捧げております。この様なことから、私達の教会で、一緒にお祈りを捧げられる機会が一日も早く訪れることを心待ちにしております。

今まで以上にお体を御慈愛いただきます様、お祈りいたします。

ご指導よろしくお願いいたします。

Viva Sacerdos

町屋　英雄（長岡地区信徒協）

タルチシオ菊地功司教様、司教叙階式及び第七代教区長（司教区としては三代目）着座式無事終了おめでとうございます。新潟教区はまことに小さな教区で、信徒の数も多くはありません。そのうえ教区内の司祭方もそれぞれの意見をお持ちです。司祭も人間ですから、強硬な意見もあろうかと思われます。その中で、聖霊の導きのもとで教区をまとめあげるのは大変なことと思います。今年の中越地区の水害の時に見せて頂いた、若さと行動力をお持ちの菊池司教様に期待致します。どうか新潟教区が神の国に一歩でも近づけるよう、お導きください。

聖パウロを信者が支えた如く

森田　国昭（新発田地区信徒協）

聖ステファノの石打に立会ったサウロは熱心なユダヤ教徒でキリスト信者を捕るさ中のダマスコ途上、輝くキリストに出会った。召命は主から直接でギリシヤ人、ローマ人、異邦人達への宣教が役割。「キリストの十字架上の死と復活」をユダヤ教の会堂や街中で宣べ続けた。商人の邸宅の一室が初代キリスト信者の教会堂だったと聞いている。彼は最後にはローマへと布教し生涯まさに苦難の旅人であったと聖書は伝えている。聖パウロが召されなかったらローマ帝国内への宣教は難しく、今日、初代の信者達の深い信仰と希望の鎖が菊地司教様をも捕らえた。教区中の全信徒は菊地司教様を全力で支え続けましょう。

左から佐藤司教・菊地司教・教皇庁大使・岡田大司教

信仰の喜びと果たすべき使命に導いてください

三崎　成夫（新潟教会）

菊地司教さま叙階おめでとうございます。

アフリカでの八年間に及ぶ小教区司牧、修道生活と志願者の養成、そしてカリタスジャパンの国際援助活動といった異色のご経歴とご体験に大いに期待しております。

またこの七月水害では直後に被災者を訪問された新司教さまの若さと行動力に感動しました。

おっとりとした私たち信徒に活を入れ、信仰の喜びと果たすべき使命を示し、導いて下さい。

あふれる喜びと感動　そして出会い渦巻く　祝賀会

第二体育館に設けられた祝賀会場も人であふれ、始めに、教区信徒を代表して新司教様へのお祝いと期待と信徒一同の決意を述べ、新司教様へ新潟教区を託された佐藤敬一司教様に、一九年もの永年にわたって導いていただいた感謝と健康の回復を祈願するとの教区信徒使徒職協議会長の挨拶の後に、新潟市内教会合同の聖歌隊が歌った新司教様作詞作曲の「主と共に」は、二十年前に名古屋で病により志なかばに異国の地で天に召されたポーランド人神学生のために、神学生として同僚であった若き菊地司教様がその死を悼みつくられたものだそうで、いまは聖公会の聖歌集にも納められて愛唱されているとのこと。

この詩には、まさに神の僕として歩むべき道が、平易にしかも端的に示されている。

祝宴に移ってからは、埋めつくした参加者の間に「出会い」の渦が至るところに出来て、マイクの声も会場の半ばにまでも届かない賑わい。正面ステージでの秋田地区のマリア音頭にはじまり、山形、新潟、シスター、神言会神学生といったグループの数々のお祝いの熱演も場内の一部にしか届かない。

その空気を一早く察知されたのか、長岡・柏崎・高田の司祭団のサンタルチアは会場の隅々まで響きわたる大音声で、これは最多拍子賞ものであった。

各地から遠路はるばる楽器や衣装を携えて足を運ばれた皆さん、本当にご苦労さまでした。鶴岡教会のかわいい子ども達の踊りに大きな拍手を贈ります。

観客のマナーはイマイチでしたが、新司教様や最前列の大切なお客様には充分お喜びいただけたと思います。

この「出会いの場」では教区内のみならず、国内だけでなく外国から駆けつけてこられた神父様や信徒達が、少しでも見知った顔がないかとテーブルを回る人の浪。そして何年ぶりか、何十年ぶりかの幾つかの劇的な出会いが演じられたようです。

出会いの感動は新司教様にも。七年有余宣教活動に当られたアフリカのガーナからの来客による、十年目の劇的な再会があった。

彼そして彼女が海を越えて運んできた感謝とお祝いの贈り物は、「ケニアのマサイ族首長の赤い服」、一本の木からくり抜いて司教杖を模した「牧杖」、そして国際カリタスのマークを掘り込んだ「木版額」。これらはまさに司教様への国を越えた信頼のシンボルであり、その司牧下に入れていただく教区信徒にとっても誉るべき象徴でもあろう。二時間近い祝宴は、新しい司教様を迎えた喜びと共に、数々の出会いや感動をもたらして、私達の胸にそれぞれの想いを刻み込んだことだろう。

参列者の喜びの声は4面に関係記事

六郷温泉（秋田）で中学生錬成会

教区主催の「中学生錬成会」は、ことしは八月十日から十二日まで、秋田県の六郷温泉を会場にして、十六人の中学生と十二人のリーダーと聖職者が参加して行われ、出会いや信仰生活での励ましが与えられたのではなかろうか。参加者の感想を紹介する。

秋田地区「清水巡りでは、台所清水で、スタッフの人につられて頭を清水に突っ込みました。」（池田雄一）「沢山の友達も出来、トランプで盛り上がったので、最高の思い出です。」（三浦まり恵）「一番良かったのは、分かち合いの時間です。共に話し共に泣き、とても心の温まる時間でした。」（石崎友也）「最初は不安だった。だけど来てみたら、みんなと直ぐに仲良くなれた。」（小松優美）

山形地区「二日目の肝試しと怖い話しでは、いろいろなパニックがあった。」（三井春樹）「日常生活では学ぶことの出来ないことを、知ったと思います。」（小笠原翔）

新潟地区「スタッフの人達もいい人達ばかりで、錬成会がより一層楽しめました。」（湯浅晃）「みんな殆ど初対面なのに、色々な事がしゃべれて嬉しかったです。」（加藤千尋）「一日で友達が沢山出来ました。嬉しかったです。」（服部美桜）「友との触れあいが、いい経験になった。」（高橋梨奈）「思い出に一番残っているのは、肝試しでした。」（藤井茜）「毎日勉強で多忙だが、錬成会では別な事を勉強できたので、来て良かったと思います。他人を大切にすることを心がけようと思います。」（細川安子）「夜、友達とおしゃべりしたのが楽しかった。」（添原彩子）「清水も沢山あって、きれいな所だと思った。色々回ったり話したり遊んだりして、大変楽しかった。」（丸山愛）「この三日間は友達と一緒に楽しく過ごせて、良かったです。」（五十嵐琴子）「ミサや聖書など自分には今まで縁のなかったものが一杯あって、自分にとって勉強になるものばかりでした。」（海津依里）

清水の湧く六郷町を散策したり、じっくりと話し合いをしたり、多忙な日常生活の中では出来ない体験をこの錬成会で実現しようと、スタッフは準備していました。今回の出会いが、今後の信仰生活の励ましになれば、この錬成会の目的は達せられたと考えられます。今回スタッフとして奉仕して下さった皆様をはじめ、祈りで支えて下さった保護者や信徒の皆様に、感謝の意を表します。参加者の今後の歩みにも恵みが与えられるように、互いに祈り合いましょう。

（高橋学神学生）

信仰生活の励ましを願った錬成会

転入司祭紹介（神言修道会）

教区報二二八号（四月三十日発行）で司祭異動転入を通知済の三人の神父様を紹介します。自己紹介から抜粋

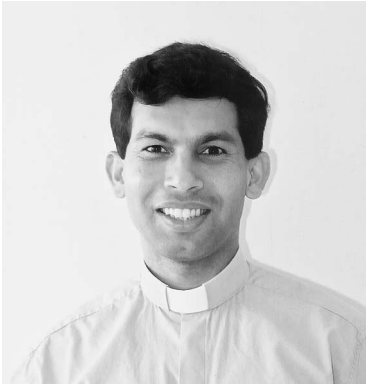
ノルベルト・ナハク神父

インドネシアから来日　14年

大館教会主任

（鹿角教会主任）

一人の宣教師として神様のことを少しでも多くの人に伝え、日々の生活の中であかしすることができるよう信徒の皆さんと力を合わせたい。



ロボ・フェリックス神父

インド出身　来日8年

司祭叙階　2002年10月5日

秋田教会助任

ジョギングが好きです。自然はいろいろなことを教えてくれるからです。川の流れ、鳥たちの賛美の声、人々との交わりは、私の支えと力になります。

フェルディマール・ファミニアラガオ神父

フィリピン出身　来日6年

司祭叙階　2003年10月4日

大館教会助任

（鹿角教会兼任）

私は次のことを心掛けています。「過去に起こった出来ごとを理解しながら、前に進んでいかなければならない」と。

叙階式参列者の喜びの声

参列者からは多くの喜びの声が寄せられました。

◇感動した。アーメンハレルヤのとおり信仰の世界の広がりを実感した。（三条）

◇新司教様のお話は力強く簡潔で、よく分かった。新しい時代を感じた。（花園）

◇若い司教様の誕生で私達も信仰に活力を感じた。（酒田）

◇感謝と感激でいっぱい。これからも心をこめて祈り働きます（聖母カテキスタ会第一ハウス）

◇佐藤・菊地両司教様の二度の叙階式に参列、感動を新たにし、恵みに感謝して神様のために力強く働きます。（秋田・シスター）

◇佐藤司教様のご苦労に感謝して、新司教様と共に神のお望みの共同体づくりに、祈りつつ励みます。（青山・聖心の布教姉妹会）

◇叙階式に参列して、神様と菊地司教様に感謝ができて、喜んでいます。（国際カリタス・アフリカデスク　コンゴ　ピエル神父。横浜教区山口師が通訳）

◇日本は始めて。とても温かい雰囲気に感動。菊地司教様、ご体験をこれからに生かして行ってください。（国際カリタス・アジアデスク　フィリピン　サニー神父）

◇神の祝福に満ち、しかも自由な風が吹き笑顔がほころぶ。本当に嬉しい式でした。お招きくださりありがとうございました。司教様の作られた聖歌「主と共に」が心に残っています。（日本基督教団新潟教会牧師　上島一高先生）

◇記念すべき素晴らしい叙階式にお招きいただき、一つ一つに聖霊のお働きを痛感し、感動を覚えました。司教様の上に神のお恵みが豊かにありますように。カトリック教会のますますのご発展をお祈りします。（救世軍新潟小隊　小隊長佐藤静子先生）

見附教会でタガログ語ミサ

八月二十九日、見附教会ではフェルディマール神父（大館教会）を迎えてタガログ語のミサを捧げた。

見附市・三条市・長岡市・十日町市周辺から八十人ほどが集まった。昼食をはさんでミサと講話があり、午後四時に再会を約して散会した。（カトリック難民移住移動委員会）

昼食をはさんでミサと講話